

■地域展

九戸地方の自然と文化－久慈市とその周辺－

会期：平成21年5月30日(土)～7月5日(日)

会場：特別展示室

県内各地には特色ある自然や文化が伝えられています。それらは、地域の人々によって守られ、地域社会が受け継いできた貴重な自然・文化遺産です。

当館では、平成13年度に「下閉伊地方の指定文化財とその周辺」、平成18年度に「稗貫地方の自然と文化」を開催し、その地域の自然や文化財を紹介しました。本展はそれに続く企画で、久慈市および洋野町・軽米町・九戸村・野田村からなる九戸郡と、昭和23年(1948)に岩手郡に移った葛巻町を含めた九戸地方の自然や文化を物語る当館の収蔵資料を中心に紹介するものです。

自然と共生した人々が、育み守ってきた九戸地方の自然・文化遺産。その一端を紹介いたします。

1 九戸地方の自然

九戸地方は山地および海岸に面した所が多くあります。鳥類が数多く飛来し、その中でも洋野町種市から野田村にかけての沿岸部は、鳥の移動のコースとして

利用されている可能性があります。冬には天然記念物のコクガンの群れや生態が余り知られていないシノリガモなど興味ある鳥類が渡来する地ですが、2009年の2月～3月には珍鳥が2種(サバンナシトド、ツクシガモ)も渡来し、バードウォッチャーを驚かせています。

北上高地北部から中小の河川が太平洋に注ぎ、その中でも、安家川のカワシンジュガイ生息状況は、日本有数のものです。北上高地から久慈周辺の海岸の低地では、岩手県産蝶類111種が分布し、絶滅の危機に瀕しているチョウセンアカシジミやゴマシジミが生息しています。

また、かつて九戸地方には広い草原があちこちにありました。今でも平庭高原などにその名残が見られます。

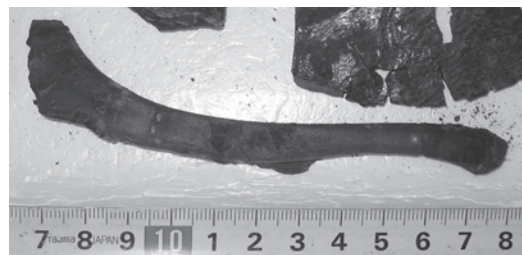
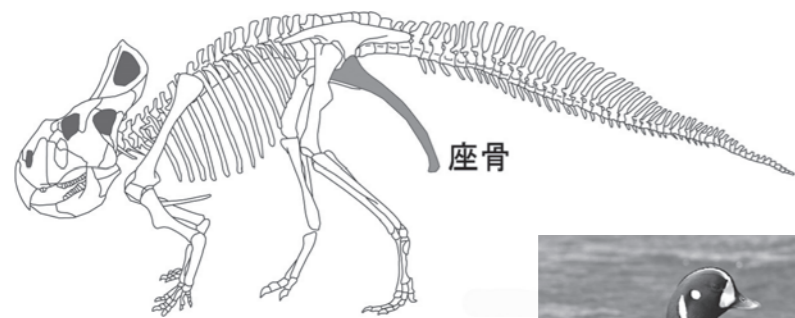
本展では、九戸地方の特筆すべき鳥類の剥製や蝶の標本、カワシンジュガイの生息状況のジオラマ、草原に特徴的な春の花の標本と写真などを展示します。

2 久慈の恐竜と化石・鉱物

昨年、久慈市で恐竜が発見されました。岩手県では、昭和53(1978)年に岩泉町で発見された日本初の恐竜のモシリリュウに次いで2番目となります。1本の座骨ですが、周飾頭恐竜という仲間のもと考えられています。恐竜が産出した地層は約8500万年前の後期白亜紀の久慈層群で、この地層からは琥珀や貝類など、たくさんの化石がみつかっています。今回は発見された恐竜の座骨のレプリカを展示し、あわせて九戸地方の化石や鉱物も展示します。

3 発掘された九戸地方

およそ2800年前の縄文時代晩期の遺跡である久慈市二子貝塚から大型の「遮光器土偶」が出土しています。ほぼ全身が残っていて、遮光器形の土偶としては全国5番目の大きさです。細部にわたって装飾が施され、均整のとれたプロポーションをもつ優品です。また、およそ3500年前の縄文時代後期の軽米町板子屋敷3遺跡からは「人面付土器」が出土



平成20年に久慈市で発見された恐竜の座骨とその位置 (写真提供 久慈琥珀博物館)



シノリガモ 洋野町種市 2006.03.18 (撮影：四ツ家孝司氏)



久慈市二子貝塚出土「遮光器土偶」 (新井谷岩蔵氏蔵)



小軽米えんぶり



えんぶりの烏帽子 (館蔵)

しています。壺形の土器ですが、靴下のような不思議な形で、そのつま先部分に人の顔が付いています。

このほか、石器の材料となる頁岩の産地である久慈市山形町の早坂平遺跡(およそ2万年前の旧石器時代)の資料や、野田村上新山遺跡から出土したおよそ1300年前の蕨手刀など、出土した考古資料によって九戸地方の太古の歴史を紹介します。

4 千年続く祈り

海や山の幸に恵まれた九戸地方。しかし自然は時に厳しく、冷たい東北風ヤマセの常襲地帯としても知られています。凶作に苦しめられた人々は神仏への信仰に救いをもとめ、なかでも軽米町徳楽寺の「木造薬師如来坐像」は平安時代中期の作と推定され、千年にわたって崇敬を集めてきました。平安末期以後、来世での平安を約束する阿彌陀如来への信仰が広がりますが、病氣平癒など現世での安楽をもたらす薬師如来を祈り続けた人々。薬師如来の穏やかな表情が、人々

の厳しい暮らしをなぐさめ励まし続けたのでしょう。見るものを優しく包み込んでくれる表情をぜひご覧下さい。

5 九戸地方の文化

江戸時代前期の寛文4年(1664)、盛岡藩主の南部重直が跡継ぎを決めずに亡くなりました。幕府の命によって10万石の領土は、8万石の盛岡藩と2万石の八戸藩に分けられることとなり、九戸地方の大半は八戸藩の領域となります。このため、青森県八戸地方と共通する習俗も多く、郷土料理の「せんべい汁」「そばかけ」「いちご煮」や、豊作を祈る民俗芸能「えんぶり」などが有名です。

えんぶりは小正月に豊作を祈った予祝行事で、舞い手は馬をかたどったといわれる烏帽子をかぶります。えんぶりの烏帽子は、神が降りてくる目印となる「よりしろ」ともいわれ、農耕図や恵比寿大黒などおめでたい図柄が美しく描かれています。

八戸は俳句のさかんな町として有名で、その影響は九戸地方にも及んでいま

す。江戸時代に八戸で出版された俳句集『俳諧風雅帖』には、現在の洋野町大野や葛巻町の人が詠んだ句が掲載されています。野田村には歌枕の地として知られる野田玉川があり、鎌倉時代の歌人西行が庵を編んだと伝えられる地もあります。このような伝承もまた、九戸地方の文芸を育んだ背景にあるのでしょうか。

また、九戸地方では古くから製鉄がさかんでした。文政4年(1821)に相馬大作家が弘前藩主襲撃未遂事件を起こしますが、大作家が所持したと伝えられる刃長113cmもの大刀「銘 万歳安国」は葛巻の鉄で造られたものです。

九戸地方の豊かな自然や文化のすべてをこの展覧会で紹介することはできませんが、先人が育み守ってきた自然・文化遺産をたくさんの方にご覧いただければ幸いです。

展示解説会
5月31日(日)、6月21日(日)
14:30～15:30 特別展示室(要入館料)



俳諧風雅帖 (小野寺敏氏蔵) 「魁のありやさくらにたつ煙り」 葛巻 大黒屋